現代短歌分類辞典

第百三十八巻

津端　亨編纂

津端　亨　編纂

現代短歌分類辞典

第一三八巻

現代短歌分類辞典

138

昭和六十年九月二十日発行　定価二、四〇〇円

著者発行兼印刷者　津端　亨

〒111
東京都台東区鳥越一―十一―八
発行所　現代短歌分類辞典刊行所
代表　津端　亨
振替　東京　三―九三一一四番
電話　〇三（八五一）九八六九番

目次（第一三八巻）

目	歌数	頁数
置き―て	二五四	一
起き―て	三二三	二三
掟	五二	四九
起きで	一	五三
おき―て―けり	一	五四
掟し	一	五四
起きで―し	一	五四
おきてし―て	一	五四
おきて―つつ	一	五四
起きで―て	三	五四
おき―て―は	一	五五
おき―て―まし	一	五五
おき―て―も	一	五五
おき―て―より	一	五五
おきて―られ	一	五五
おきて―られ―ける	一	五六
おきて―られ―し	一	五六
おきて―られ―て	一	五六
おきて―られ―ゐる	一	五六
沖照り	一	五六
起きてる	一	五六
おき―て―ん	一	五七
置処	九	五七
置時計	一二	五八
置床	一	五九
置どころ	三二	五九
沖土手	一	六二
起きとほす	一	六二
沖取り荷船	一	六二
起きな	一	六二

翁
起きないに　一五八　六三
沖中　三　七六
息長　七　七六
おきな―かくしづま　六　七七
息長川　一　七八
翁語り　一　七八
起き―ながら　一　七八
置き―ながら　一　七八
翁草　七　七八
起き―なくに　四八　七九
起き―なけれ―ば　一　八三
翁そうめん　一　八四
翁さび　二　八四
翁さびし―て　一四　八四
翁さびす　三　八四
翁さびせ―し　二　八六
翁さびせ―む　三　八六
翁さび―たり　一　八六
翁さび―たる　三　八七
翁さび―つつ　五　八七
翁さび―ぬる　一　八七
翁さび―まし―ぬ　一　八八
翁さびゆく　二　八八
翁さびをる　一　八八
翁島　一　八八
置きなす　一　八八
翁姿　二　八八
翁たち　二　八九
翁づれ　一　八九
沖縄　二八　八九
起き―な―ば　一　九二
沖縄沖　一　九二
沖縄島　一　九二

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

翁芭蕉　一　九二
おぎなは―ね―ば　一　九二
沖縄の沖　一　九二
沖縄人　一　九三
沖縄婦人　一　九三
沖縄本島　一　九三
おぎなは―む　一　九三
沖縄少女　一　九三
おぎなひ　一　九三
おぎない―て　二　九四
おぎなふ　三　九四
起きなほら―む　一　九四
起きなほり　六　九四
起きなほり―つつ　一　九五
起きなほりをる　一　九五
起きなほる　四　九五
沖海鼠　一　九六

沖膾する　一　九六
翁丸　一　九六
沖浪　五　九七
置き―なむ　二　九七
置きなめ―し　一　九七
置きなめ―て　一　九七
置きなめ―ぬ　一　九七
翁ら　五　九八
置きならひ　一　九八
置きならぶ　一　九八
置きならぶる　一　九九
置きならべ　九　九九
置きならべ―たり　三　一〇〇
置きならべ―たる　一　一〇〇
置きならべ―つつ　一　一〇〇
置きならべゆく　二　一〇〇
起きなれ―し　三　一〇一

起きなれ―て　一　一〇一
置きなれ―ぬ　一　一〇一
置き―に―けむ　二　一〇一
置き―に―けらし―な　一　一〇一
起き―に―けり　三　一〇三
置き―に―けり　四三　一〇三
置き―に―ける　五　一〇六
置き―に―けれ　一　一〇六
置き―に―けん　一　一〇六
置き―に―つつ　一　一〇六
置き―ぬ　四一　一〇七
起き―ぬ　九　一一〇
起き抜け　二七　一一一
置き―ぬ―べき　一　一一三
おくら―む　一　一一四
置き―ぬれ―ば　一　一一四
起き―ぬ　四　一一四
起き―ね―ば　二　一一五
沖の大兄　一　一一五
隠岐の国　一　一一五
置きのこされ―し　一　一一五
置きのこされ―た　一　一一五
置きのこし―たる　一　一一六
沖の小島　一　一一六
起きのこりゐ―て　一　一一六
隠岐　九　一一六
おきのたいふ　一　一一七
隠岐の帝　一　一一七
おぎのり　一　一一七
おぎのり―し　一　一一七
沖の端　一　一一八
置場　七　一一八
置きはじむ―らむ　一　一一八
置場所　一　一一九

燠火　三　一一九
おきひび　一　一一九
置きふかし　一　一一九
置き深む―らし　一　一二〇
起き伏し　一三三　一二〇
起き伏し（連用形）　五　一二〇
起き伏し―いまし　一　一三一
起き伏し―がたし　一　一三一
起き伏しき―たる　一　一三一
起き伏し―し　三　一三一
起きしす　一　一三一
起き臥しせ―る　一　一三二
起きふし―たまへ　一　一三二
起き臥し―たり―しか―ば　一　一三二
起伏し―たる　一　一三二
起臥し―て　二三　一三二
起き伏し―に―けり　五　一三四
起き臥し―に―つつ　一　一三五
起き伏し―ぬ　二三　一三五
起き伏しゆき―て　一　一三五
起き伏しわしる　一　一三五
起き伏す（終止形）　三二　一三六
起き伏す（倒置法）　二　一三八
㋐起き伏す　一　一三九
起き伏す（連体形）　四三　一三九
起き伏す―かた―と　一　一四二
起き伏す―ばかり　一　一四二
起き臥す―らむ　一　一四三
起き伏す―を　三　一四三
起き臥せ―ば　四　一四二
起き伏せ―り　一　一四四
起き伏せ―る　一　一四四
遺文　一〇　一四五
おきふるし―たる　一　一四五

沖辺　六八　一四五
おきまさり―けり　一　一五一
置きまさる　三　一五一
おきまりゆく　三　一五一
起きまし　一　一五二
置き―まし―し　一　一五二
置きまじへ　一　一五二
置き―まつる　一　一五二
置き―みだし―たる　一　一五二
置きみだる　一　一五二
置きみっ　一　一五三
置きみ―っつ　一　一五三
置きみ―て　一　一五三
置きみて―る　一　一五三
起き―む　八　一五三
おきむすぶ　一　一五四
起き―も―あへ―ぬ　一　一五四

意岐米　一　一五四
おき―も―あがれ―ず　一　一五五
置き―も―あへ―ず　一　一五五
起き―も―いづれ―ば　一　一五五
起き―も―え―ざる―べし　一　一五五
起き―も―かへら―ず　一　一五五
起き―も―かへら―で　一　一五五
起き―も―なほら―ず　一　一五六
起き―も―なほら―ぬ　一　一五六
置物　四　一五六
置物めく　一　一五六
お経　三　一五七
お行の松　一　一五七
お客　四　一五七
お客様　一　一五七
お客さん　一　一五八
置きやすむ　一　一五八

置きやる　一　一五八
置きゆき―し　三　一五八
起きゆき―し　一　一五八
起きゆき―て　一　一五八
置きゆき―に―けり　一　一五九
置きゆき―ね　一　一五九
置きゆく　一　一五九
起きゆく　二　一五九
置きゆ―けり　二　一六〇
置きゆけ―る　一　一六〇
置きゆるみ　一　一六〇
起きよ　四　一六〇
起き―よう　一　一六一
置きよろひ―たる　一　一六一
起き―られ―ず　一　一六一
起き―られ―ない　一　一六一
起き―られ―ぬ　一　一六一

起き―られよ　一　一六一
起きる　一三　一六二
起きる―な　一　一六三
起きれ―ば　一　一六三
おぎろなき　四三　一六三
おぎろなく　四　一六七
おぎろなさ　一　一六七
おぎろなし　一四　一六七
おぎろなる　一　一六九
起きわかる―らし　一　一六九
おきわかれ―こ―し　一　一六九
置きわすら―れ―て　一　一六九
置きわすれ　二　一六九
置きわすれ―けり　一　一七〇
置きわすれ―けん　二　一七〇
置きわすれ―し　二　一七〇
置きわすれ―し―も　一　一七〇

置きわすれ—た　一　一七〇
置きわすれ—たり　一　一七一
置きわすれ—たる　三　一七一
置きわすれ—た　一　一七一
置きわすれ—つつ　一　一七一
置きわすれ—つれ　一　一七一
置きわすれ—らる　一　一七二
置きわたし　一　一七二
置きわたし—けり　一　一七二
起き伏し（名詞）　二　一七二
置きわたし—たり　一　一七四
置きわたし—たる　三　一七四
置きわたす　一八　一七四
置きわび—し　一　一七六
起きわび—らるる　一　一七六
起きわぶる　一　一七六
起き居　一　一七七

起きゐ—し　一　一七七
起きゐ—し　三　一七七
起きゐ—たり　三　一七七
起きゐ—たり—けり　四五　一七八
起きゐ—たる　二　一七八
起きゐ—つ　五　一七八
起きゐ—つつ　四　一七九
起きゐ—て　二五　一七九
起きゐ—む　一　一八一
起きゐる（終止形）　五　一八二
起きゐる（連体形）　一三　一八二
起きゐる—らし　一　一八三
起きゐる—らむ　一　一八三
起きゐれ—ば　一　一八三
起きしみ　一　一八三
起きをしみゐる　一　一八三
起きをしみをり　一　一八三

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

起きをしむ　一　一八三
起きをり　八　一八五
起きをり―て　三　一八五
起きをれ―ば　一一　一八五
起き―ん　一　一八七
起く　五　一八七
晩稲　一　一八七
奥　八四九　一八七
置く（動詞）　二　二五九
置く（名詞）　二三二　二五九
置く（動詞）　五〇二　二七八
置く（倒置法）　二　三二〇
〆置く　七　三二〇
億　二　三二一
奥秋川　一　三二一
奥秋の里　一　三二一
奥足柄　二　三二二

奥荒川　一　三二三
奥伊豆　五　三二三
奥伊豆安良里　一　三二三
奥伊豆人　一　三二三
奥むめお女史　一　三二三
奥蝦夷　三　三二三
奥大山　一　三二三
奥処　一二〇　三二四
奥吉備　四　三三六
おく国　二　三三六
おくくう　五　三三六
奥熊野　一　三三七
奥元師　一　三三七
置くごと　二　三三七
置く―ごとく　二　三三八
置く―ごとし　四　三三八
億劫　一　三三八

奥駒ケ岳　一　三三八
奥ごもる　一　三三九
奥嵯峨　二　三三九
奥相模　一　三三九
奥座敷　三　三三九
奥沢　三　三四〇
奥沢村　一　三四〇
奥様　一　三四〇
奥様達　一　三四〇
奥さん　四　三四一
おぐし（お髪）　二　三四一
おくしーつつ　二　三四二
おくしーて　一　三四二
奥支那　二　三四二
奥信濃　二　三四二
奥信濃路　一　三四二
奥社　一　三四三
奥上州　三　三四三
奥社参道　一　三四三
奥社道　一　三四三
奥白根　一　三四四
奥尻島　一　三四四
臆す　五　三四四
臆する　一　三四五
奥瀬　一　三四五
臆せーず　二　三四五
臆せーる　二　三四五
臆測　一　三四六
奥底　三　三四六
奥空　一　三四六
奥田　一　三四七
奥大山　二　三四七
奥平　一　三四七
奥高根　一　三四七

奥谷・奥溪	一七	三四七
奥谷川	一	三四九
奥多摩	一六	三四九
奥多摩氷川	一	三五〇
奥丹波	一	三五一
奥地	一三	三五一
奥地測量	一	三五二
奥秩父	二	三五二
おくちふ	一	三五二
お靴	一	三五三
奥仕へ	二	三五三
奥津城	一三二	三五三
合計	三、九九〇首	

おき―て【動詞・助詞】

庭笹に音する雨や筆おきて帰りのおそき母をしのぶも①　松田常憲

庭中の秋日に影を濃く置きて胡麻叩き居る母の姿よ　松沢美声

庭の木も草もしとどに露置きて萎手つめたき頃となりたり①　中井コッフ

入洛ただちに訪ひては立ちし玄関へただ花束をおきて去るとき㉙　土岐善麿

荷を解きてかたへにおきてすがしけれ鯛の姿をひさびさにみつ⑥　松田常憲

盗まむと思ふ紫蘇の実のまだ若し五六日おきて吾の来るべし（村野四郎）　岡部文夫

ねもごろに洗ひ浄めし井戸框（かまち）塩一つまみ置きてありけり②（現代短歌全集）　山下陸奥

濡縁に牛乳の壜置きて去る少年ありき疲れつつさむ⑤（角川文庫）　近藤芳美

ねもごろに書きし手紙は枕辺にひと夜を置きて朝投じけり①（角川文庫）　吉野秀雄

年代をおきてたてたる墓石のおのづからなる規劃をたもてる⑤　四賀光子

のしゆんぎく褪せゆく花を惜むかな籐椅子を窓の近くに置きて④　小暮政次

おき―て

おき―て

登窯のあらき赤埴掌を置きて触るればかなし室のぬくもり④　千代国一

糊と鋏とかたへにおきて児戯に似しことにもはらなり旅立たむとす②　村田利明

奉公袋を置きて死つるつはものの心はひたにまがなしきかも①　白水吉次郎

萩桔梗黄菊白菊さてもこの物見車に身を置きてまし③　中原綾子

爆音の過ぐるを待つ間本措きて紙屑拾へと生徒に命ず⑤　植松寿樹

白日のくるめくなかに大赭面もゆる向日葵をおきて思はむ㊀　太田青丘

刷毛おきて化粧あがりのかつてなく派手なるを自ら寂しく思ふ　原阿佐緒

箸をおきて心なごみゆく亡き父が手沢したしきこの小さき卓⑩　松村英一

撥さばく音籠り鳴る地下道に銭置きて来て動悸してをり㊀　三木アヤ

鉢にして花ひらきたる朝顔の五十あまり置きて足蹇君は　北原白秋

花あかきわびすけの鉢をそばにおきて儀平縄なふ小雪散る日を⑰　前田夕暮

花茎を伸ばしはじめし冬の菜にけさまた置きて霜はするどし⑥　木俣修

花などを挿すならねども壷置きてものやはらかにありぬわが部屋　清水恒子

はなみづき一枝まくらべにおきて臥す君のかたへの春のぬくもり㊀　上代皓三

華やかに寝雪の縞の引かれたる穂高を置きて川走るかな㉘　與謝野晶子

帚木の読み解きがたき一ふしに朱筆はおきて水飲みに立つ①　橘宗利

母措きて事のあはれを告ぐるべきさぶしさ胸に柚子の実を愛づ②　大岡博

姑の湯たんぽ温むる夜の時が来て読みさしの本措きてわが立つ②　山田百合子

母われも育ちたしと思へば吾子をおきても行くなり　五島美代子

母をおきて誰れか許さむふるまひと子を叱りつつ吾が泣きゐたり②　高橋英子

葬り火は燃えたちにけり汝を置きてかへる山路に足凍えきつ（新萬葉集九）　吉田元治

早く起きてもの書く夫があまきもの一人して大方たひらげて居り㊁　鹿児島やすほ

榛が根に鳥罠おきて待つ朝を霜の静けく榛の葉ちるも⑥　島木赤彦

春の陽に輝き笑まふ女の童瞼の外に置きて思へや⑧（多磨一）　北原白秋

おき―て

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com